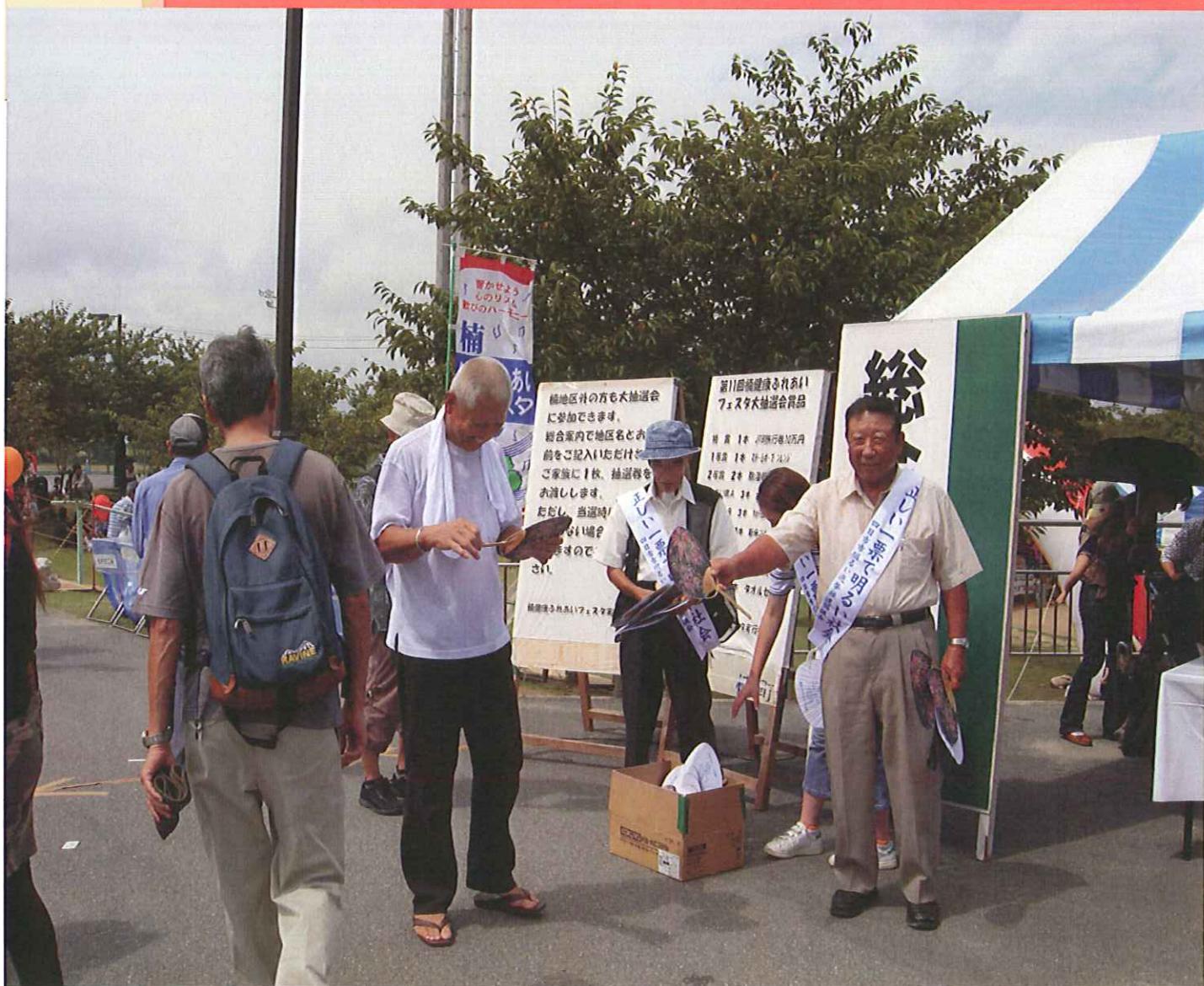


私たちの一票

第3号



目次

楠健康ふれあいフェスタでの啓発活動（楠緑地公園で）

- はじめに
会長 副会長 選管委員長 ②
- 平成18年度モデル地区からの報告（常磐・桜・三重） ③
- 各地区から
(富洲原・四郷・河原田) ④
- あとがき



決めた！
三重のあしたを
まかす人

第16回統一地方選挙
啓発統一標語入選作
三重地区 山本 高三さん

平成19年2月6日 発行
四日市市明るい選挙推進協議会
四日市市諏訪町1番5号
四日市市選挙管理委員会事務局内

新しい明推協活動に向けて

明推協会長 高橋 佳子

1年間で100回以上の常時啓発を実施している四日市市「明推協」は「凄い！！」といつも思っています。啓発の様子も各地区ごとに異なりますが、どの地区もイベントの中に溶け込んで自然体なのがなお素晴らしいと思うのは手前みそでしょうか・・・

そんな中、思ってもみなかった「はたちのしおり」配付が、選管から個人情報保護に触れるため、突然中止となったのは誠に残念です。過去8年間にわたり、地域の人たちと親しく接する機会ができ、ようやく軌道にのってきたところで、このまま新成人への接点が続くことを望んでましたので、この啓発の中止は惜しまれます。この啓発に付随して、毎月の配付に当たり、地域が広範囲なこともあり地区委員全員が協力し、他の各地区との話し合いの場にもなりました。市役所での月1回の封入時には、作業しながら他地区との交流の場で、「一石何（？）鳥」も情報交換のできるひとときもありました。

若年層への啓発は特に難しく、近年この問題を模索してきた今、このような形で若者に向けての啓発が後退することは残念でなりません。また新しい企画を立て無関心層から少しでも政治や選挙に関心をもち、心動かしていただける啓発を「明推協委員一同」の総力で盛り上げていきたいと心から願っています。長きにわたり各戸訪問をしていただいた明推協委員の皆様ご苦労様でした。そしてお疲れさまでした。各地区ますますのご活躍をお祈り申し上げます。

いつまでも先進都市で！

四日市市選挙管理委員会委員長 市橋 愛爾

本市の明推協は、これまで、全国的に何度もビデオで紹介されたり、雑誌にも掲載されてきました。

ここにきて、個人情報の保護や選挙人名簿の閲覧の規制強化などで、主要事業であった「はたちのしおり」の配付が難しくなり、終了しなければならなくなつたのは、とても残念でなりません。この事業はなんといっても、明推協の委員の方が新成人の自宅を訪問し、「はたちのしおり」を手渡しすることに意義があったと思います。こうした地道な活動こそ、選挙啓発に欠かすことができない啓発であり、本市の明推協が先進都市であるゆえんと考える次第です。

今後、この事業を終了しても、本市の明推協が、いつまでも全国の明推協のお手本として、先進都市であり続ける活動を行っていってほしいと願っています。

中堅指導者養成研修会に参加して

明推協副会長 山本 江里子

平成18年8月9日、福井県敦賀市において、明るい選挙推進協議会の東海・北陸ブロック中堅指導者養成研修に参加しました。

福井県明るい選挙推進協議会会长の開会挨拶の後、6グループに分かれ「明るい選挙推進協議会の現状」をテーマに、各地の明推協の組織と活動状況などグループ討議をしました。「主人公は君だ！」のショートムービーを見ながらの昼食後、若年層の政治や選挙に対する関心を高めるため、若者の視点から啓発活動を企画立案し、実践する「福井県明るい選挙推進青年活動隊CEPT」の活動紹介がありました。続いて、「協議会に新制度を導入」のテーマで、明推協に研修部会や広報部会を作るためにはどうしたらよいかなどをグループ検討しました。休憩の後「新規事業を導入」のテーマで、映画の上映をしてはどうか、明推協の広報作戦（ミニメディアへアプローチしてはどうか）などを話し合いました。最後にグループ発表と意見交換があり、私も四日市市明推協の活動などを発表しました。

研修に参加して

明推協副会長 富島 正昭

平成18年10月11日岐阜市の「ぱるるプラザ岐阜」において、コミュニティリーダー養成研修が行われ、四日市市から3人が参加させていただきました。

研修の中身は講演・ビデオ鑑賞・ワークショップ（討議）でした。ビデオ鑑賞のときには大変驚きました。というのは、その内容が四日市市での選挙啓発活動の年間の記録でした。一緒に参加された山田さんもできました。「四日市市は啓発活動が進んでいるなあ」と思いましたし、それを岐阜市で鑑賞するとは思っていませんでした。

討議で話題になったのは、若い人の投票行為の低さを“どう克服するか”でした。色々な考え方を聞いて私も勉強になりました。なかでも私たちが日常行っている地域や街頭啓発、それに投票立会人にもなつてもらうなど、大胆に若いリーダーを養成することが大事だと感じました。この研修を契機に、さらに努力してまいります。



若い人の投票を！

常磐地区 堀 桂子

常磐地区は投票率が低いので残念です。明推協に関わるようになって、駅前や地域での行事にティッシュやうちわを配ったり、期日前投票の立会いをしたりしています。私どもの地域に限らず、若い人の投票率が低いのが全国的な問題だと思います。最近はインターネットでも関連のサイトが増えているようですが、実際に活用している人は少ないと思います。それで私は以前から思っているのですが、若い人たちがよく見るテレビ番組などでは、選挙が近づいたら司会者の方が「一人前の人間ならちゃんと投票に行くように」とか、「投票に行かない人は政治に文句を云うな」「我々の一票で世の中を変えられる」というようなメッセージを伝えてほしいと思います。

高齢者も生きにくい世の中になったと実感したら、自分の一票がどれほど大切な物かを自覚して、ぜひ投票所に足を運んでほしいと願っています。

モデル地区として

桜地区 真川 勇

四日市市は楠町合併で30万都市となり、明推協委員は現在24地区137名で活動しております。

各地区は「明るく正しい選挙」を目標に独自の選挙活動をし、投票率向上をめざしております。平成7年に23地区を9グループに分け、桜地区は今回で2巡目を迎えました。青少年育成のための「モデル地区」を設けて、小・中・高等学校（桜小学校、桜台小学校、桜中学校、西高等学校）に選挙啓発ポスター及び選挙用機材の貸出しのお願いをし、夏休みの自由課題作品としていただくことにしました。作品は連合自治会主催の文化祭の会場である桜台小学校体育館、桜花台コミュニティセンター、桜小学校体育館に各連合自治会の方々には、作品展示のご協力をいただきました。そして、桜台小学校の生徒さんから73枚、桜中学校の生徒さんから16枚の作品を提出していただきました。

桜地区委員は、毎年、講演会、納涼祭、盆踊り、文化祭に重点をおき、選挙啓発活動しております。住民の方々の選挙への関心、投票率向上につながる活動を続けていきたいと思います。



三泗支会研修会(菰野町けやき会館で)

モデル地区の指定を受けて

三重地区 山本 高三

本年は、常磐・桜地区とともに名誉あるモデル地区の指定を受けました。さてどのような啓発活動を実施すればよいのか正直戸惑いました。これからモデル地区の指定を受けられる地区的皆様に多少なりともお役に立てばと恥ずかしながら、当地区的取り組みの主なものを拾ってご紹介します。

6月8日地区委員会を開催して啓発活動の推進方法を検討協議しました。その結果、当地区には、4小学校区あり、1校区当たり2以上の行事に合わせて啓発活動を実施するという方針が決まりました。各校区ごとに当該委員が中心となって年間行事を抽出し、効果が期待できる行事を探り、これに焦点をあてて活動することといたしました。

先ず、7月には、選挙管理委員会市橋委員長の講演会、4校区内の自治会正副会長社協の理事はじめ市民の方など51名が出席。機知に富んだお話を感謝を受けました。

また、校区内の学校訪問に始まり、各校区ごとに盆踊り、運動会、敬老会行事、グラウンドゴルフ大会、文化祭、ふるさとウォークなど。多くの市民が集まる機会を見逃すことなく、各委員が協力して懇意、法被、襷を武器に啓発活動を展開することとしました。活動の大半を終えて、4月の統一地方選挙及び夏の参議院議員選挙で投票率がアップできるのか内心忸怩（じくじ）たるものがありますが、今後とも微力をつくしてまいります。



各地区から

地区での活動について

富洲原地区 鈴木 稔

富洲原は3つの地区が合併して町となった土地で、現在でも古い伝統が受け継がれています。大正の初め東洋紡績の進出とともに地元の平田紡績も大きくなり、2大紡績を主として町が発展しました。時代の変遷とともに、2つの紡績もなくなり、その跡地は大型スーパーと住宅に変わってしまいました。この地区は以前から選挙への関心が高く、投票率は現在でも市内で上位を占めています。明推協の委員は3地区から2名ずつ選ばれた6名です。3地区が一体となって行われる7月の夏まつり、9月の敬老会、10月の文化祭と大勢が集まるときに啓発物資を配り、選挙意識の高揚を図っています。

「市民が主権者として豊かな政治常識と高い選挙道義を身につけ、明るい選挙を推進することにより、民主政治の健全な発展に寄与する」とうたわれている会の目的に向かって今後もがんばっていきたいと思います。

▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲
コミュニケーションリーダー研修会に参加して

河原田地区 山田 真美子

10月11日岐阜市の「ぱるるプラザ岐阜」に三重県から4名参加しました。最初、岐阜県明るい選挙推進協議会の西村会長から挨拶があり、東海北陸9地区、35名が6グループに分かれ、ワークショップ形式でいろいろ意見を出し合ながら、どうすれば若い人たちが選挙に関心を持ってくれるか、そして投票に来てくれるかを話し合いました。初めてのやり方で、最初は戸惑いと場違いな所に私がいるようで、何を言ったらよいのか悩みました。

昼食の時に四日市の明推協のビデオが上映されてびっくり、私が出ていたので恥ずかしい思いでした。

意見交換の結論は出ませんでしたが、各地区の抱えている問題はどうしたら選挙に行く人が増えるか？どうすれば若い人も選挙に興味を示すのか？一番の課題であり、また難しい問題もあると思います。

広報編集

編集委員長 萩 伸元（小山田）

編集委員 川村 憲一（常磐） 小川三枝子（塩浜） 山本 高三（三重） 石川 琢己（楠） 山田真美子（河原田）

あとがき

- ◎…印刷予算がつかず、本号も選管職員にお手数をかけた第3号となりました。発行にかける私たちの意気込みと熱意が市に伝わらず残念です。市橋愛爾選管委員長はじめ明推協委員からの寄稿、心からお礼申し上げます。ありがとうございました。
- ◎…先進都市“四日市”的名を一躍全国に広めたのは、「はたちのしおり」の手渡しでした。高橋佳子会長の信念と努力は、力まず誠を積み重ねた結果でした。今、ヨコ糸がブツンと切れ、タテ糸だけとなり、交流の場が消えました。これに代わる啓発を企画委員会で模索中です。よい案があれば教えてください。
- ◎…春になると統一地方選挙が始まります。期日前投票や投票当日の立会人で、お世話になります。私一人ぐらいと思う心が世の中を大きく左右していることを考えれば、啓発は地道な活動ですが、自分自身に誇れる大切な尊い役と申せます。希望が持てる住みよい四日市のため、力を合わせて、がんばってやりぬきたいものです。

明推協と私

四郷地区 井上 敏夫

平成10年、地区連合自治会の役員となったのが縁で明推協の委員となり9年目になります。

平成17年度はモデル地区に指定され、選管事務局、地区市民センター館長はじめ地区の皆様のご支援で、モデル地区啓発活動を終了できました。

市橋選管委員長にお願いしました「暮らしと選挙」講演会の開催に当たっては、衆議院の突然の解散の影響を受け、再三の日程変更後、公示後の9月2日になってしまいました。また、選挙啓発ポスターも訪問しました小中学校6校の皆様のご努力で、131人の応募があり、文化祭の啓発活動に花を添えていただき、お礼申し上げます。

さて、四日市市の啓発活動の目玉となっていた「はたちのしおり」の手渡し配付も諸般の事情により、平成18年10月配付で終了となりました。四郷地区は、旧四郷、笛川団地、高花平、小林町と地域も広く、また、近年住宅開発の影響を受け、新成人の数も増えています。しおりの配付枚数も全体の8%弱と上位の地区で10年6か月、地味な配付活動を支えてくれた委員の皆様にお礼申します。

ご承知のように平成19年は選挙の年と言われています。12年ぶりに統一地方選と参院選が同じ年に行われます。

今年も文化会館で成人式が行われました。県教委の調べでは四日市市の成人式対象者は3,276人だそうです。県全体でも最低の水準。少子化などで減少している新成人に選挙の年にふさわしい1票を投じてほしいと念願しています。明推協の新年度の具体活動方針に基づき微力ながら努力したいと思います。



成人式での啓発活動（文化会館）